

UNISPACE+50

(6月18～21日,於ウィーン国際センター)



平成30年6月21日 外務省 宇宙室

1. 会合の概要

●ソ連による世界初の人工衛星であるスプートニクの打ち上げ（1957年）の翌年の1958年に設けられた宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）は,宇宙の平和利用を旨とする宇宙条約の発効に当たり,その後の宇宙利用の在り方について議論すべく「**UNISPACE I**」会合を開催（1968年）。

同会合から50年を迎えるに当たり,これまで3回開催されたUNISPACE会合（1968年,1982年,1999年）を振り返りつつ,**宇宙の平和利用のための国際協力の将来について**検討する機会として,**①シンポジウム（18,19日）,②ハイレベル・セグメント会合（20,21日）,③会場内展示**を開催。

●ハイレベル・セグメント会合冒頭,議題となった宇宙の平和利用のための**国際協力の方途**や**COPUOS,国連宇宙部（UNOOSA）の果たすべき役割**等について記した,「**UNISPACE+50決議**」（副題：**持続可能な開発の原動力としての宇宙**）を**エンドース**。同決議案は今秋の国連総会に提出される。また,同決議案を踏まえ,今後のCOPUOSにおいて,SDGs達成等を含めた将来の宇宙の側面からの取り組みをまとめる「宇宙2030」アジェンダの策定作業を行っていく。

●ハイレベル・セグメントは,COPUOS加盟国（87）だけでなく全国連加盟国を始め,宇宙に関係する国際機関や非政府主体を招待。**閣僚級（14名）,宇宙機関の長（10名）**を含む,**70を超える国・機関等が参加**。

●我が国から北野充在ウィーン日本政府国際機関代表部大使が団長を務め,外務省,文科省,内閣府（宇宙開発戦略推進事務局）,JAXA関係者他が出席。山川JAXA理事長がハイレベルセグメント会合に登壇。

※我が国のステートメントの概要（6月21日,山川宏JAXA理事長）

- ・我が国として,スペースデブリ対策を含め様々なビジネスが生まれる中で,民間を含め様々な主体と協力しつつ,**更なる国際宇宙協力を進めていく**旨,またそのためにも,交渉中の「**宇宙活動の長期的持続可能性（LTS）に関するガイドライン**」の**妥結**を呼びかけ。
- ・今年3月に東京で開催した国際宇宙探査に関する国際会議（**ISEF2**）の**成果を紹介**。**国際保健分野**における**ポリオの撲滅**のためのJAXAとWHOとの協力や,**低排出社会**に向けた**パリ条約**の実施に当たりNASAをはじめとする宇宙機関との協力,**KiboCUBE**をはじめとした**能力開発**の取り組みを紹介。

2. UNISPACE+50における日本関連の発信



① 高レベル・セグメントにおける 山本 龍一 JAXA 理事長 による日本のステートメント

② シンポジウムには、岡田アストロスケール CEO（6月20日「宇宙と産業」右から2人目）、佐々木 JAXA 宇宙教育推進室計画マネージャ（6月21日「宇宙と若者」一番右）がそれぞれパネリストとして登壇。③ 小島国連宇宙部エキスパートが「宇宙と若者」セッションのコーディネーターを務めた（中央）。



④ 会場内の展示ブースにおける日本企業（ispace社）による出展。

⑤ JAXAが、国連宇宙部の協力の下実施している「KiboCUBE」プロジェクトについて、多数の応募の中から第3回放出国をモーリシャスに決定し公表、また、同プロジェクトの延長（2021年3月まで）に係るMOUを締結。

⑥ 高レベルセグメント中、JAXAきぼう実験棟との交信セッションを実施。

⑦ 我が国（文科省・JAXA）とアジア太平洋諸国の宇宙機関との間の協力枠組みであるAPRSAF（アジア太平洋宇宙機関フォーラム）がESPI（欧州宇宙政策研究所）において、社会経済開発に向けたシンポジウムを実施。